

中学生と附属幼稚園生との交流で使用する絵本作成の教育実践の構想

— ESD・SDGs の価値観を幼児に伝えるために —

中嶋たや

(奈良教育大学附属中学校)

福田真人・長友紀子

(奈良教育大学附属中学校)

An Idea for Educational Practices in Creating Picture Books for Interaction Between Junior High School Students and Attached Kindergarteners:

To Convey the Values of ESD and SDGs to Young Children

Taya NAKAJIMA

(Attached Junior High School, Nara University of Education)

Masato FUKUDA, Noriko NAGATOMO

(Attached Junior High School, Nara University of Education)

要旨：本研究では、中学校での持続可能な社会の創り手の育成において、主体的に ESD の価値観を次世代に伝えようとする実践的態度を育むことを目的とし、教科横断的及び実践的・体験的な学習活動による ESD に関する絵本の作成及び幼児への読み聞かせを実施する。今年度は美術科・国語科・家庭科連携しての実践を行った。キャラクター設定の段階から ESD・SDGs を意識することでより幼児に ESD を伝えることのできる絵本を作成することができたのか、3 年生までの国語科・家庭科の授業だけでなく、授業全体で身につけた社会的見方を絵本づくりにどう生かせたかについて考えたい。

キーワード：ESD esd

絵本の作成 make a picture book

絵本読み聞かせ read books to children

美術 Art

国語科 Japanese

家庭科 home economics

1. はじめに

本校と附属幼稚園が交流を行うようになって 14 年目になる。そんな中、一昨年度、幼稚園交流で使用する絵本を、「ESD とは何かを幼稚園児に伝える」をテーマに、作製する実践を始めた。昨年度までは、国語科と家庭科が連携する形で授業を行ってきたが、今年度については、さらに質がたかく、園児に ESD を伝えることができる絵本を目指して、美術科とも連携した授業の形を試行した。それとともに先行実践を洗い直すとともに、本実践を行う意味についても検討することとした。

1.1 問題意識

ESD について、本校の生徒はいろいろな場面で学習している。

本校では、ESD を長くテーマに研究してきた。ホールスクールアプローチで取り組み、各教科・総合を通じて、ESD の理念を子ども達に伝えてきた。

たとえば、家庭科では、生活を批判的に見つめることを基本に生活について学ばせている。エシカル消費を切り口に、食生活を考える、レジ袋の問題からプラスチックの問題について考えるなど家庭科は ESD と密接に関係する教科であると考えられる。保健体育では、2 年時、水の問題、ゴミの問題などを通じて環境問題について学ぶなど、他教科もふくめて子ども達は ESD について学んでいる。

また、本校では、この持続可能な社会の創り手を育むため、臨海実習・奈良めぐり・熊本修学旅行などで、「人に出会う」という実践行ってきた。子ども達は、いろいろな背景を持つ人々と出会う中でいろいろな価値観にふれてきている。本校研究紀要第 47 集の『『人に出会う』

学びによる子どもの変容」の要旨で、

『実習』『奈良めぐり』『沖繩修学旅行(沖繩の旅)』といった行事の取り組みを、他者性を介した(『人に出会う』)学びから構想することによって、より生徒自身が主体的に社会に関わる力を身につけ、『なぜ、学ぶのか』『学んだことをどのように社会に実現させて行くのか』『そのための主体はどのように形成されるのか』という ESD の本質まで迫る自己変容の様子を、ナラティブから読み解く(吉田他、2019)

と示されているように、

ESD では、「つなぐ」というキーワードも大切にできており、本校生徒は、行事で「ひとに出会う」の活動を通して、ESD の価値観を自分たちのものにつつまある。今度は、自身が伝える側として園児に「ESD とは何か？」を伝えてほしい、との願いから「中学生が ESD を素材にして幼稚園児の発達段階にあった絵本作りを学ぶ」ことをねらいとして 3 年目の実践に取り組んだ。

今年度は、昨年度までと異なり、美術科とも連携することにより、キャラクターを考えることからスタートした。

絵本作りにおいてキャラクターが立っていることで、物語がよいものになることを期待した。

1.2 先行研究

中学校家庭科での絵本作成の事例としては、「幼児来校型幼児とふれ合う活動」を組み込んだ中学校家庭科の指導計画の作成と授業の構想をまとめた中で布絵本の作製について述べた鈴木ら(2016)の研究がある。この事例の場合、絵本を用いての中学生と園児の交流については述べられているが、絵本の作成についての詳細の記述はない。

ESD について幼児に絵本で伝える事例としては、長野県への修学旅行の事後学習として家庭科での幼児教育分野と組み合わせる絵本作りに取り組んだ大阪府寝屋川市立第十中学校の実践が、第 9 回 ESD 大賞受賞校実践集に紹介されている。この事例の場合も絵本を作成したと言うことを報告したのみになっている。また、JICA のホームページの「教材紹介・貸出(国際協力・SDGs・多文化共生を考えるために)」の総合的な学習(探究)の時間のアイデア集の 1 つとして「絵本作りで伝える SDGs」と言う授業案が紹介されている。

教科連携による絵本について学習する事例としては、家庭科と国語科で連携して幼児の発達段階にあった絵本を選書し、読み聞かせする関谷による「令和 3 年度文部科学省事業報告会 みんなで使おう学校図書館! Vol.13」での東京学芸大学附属世田谷中学校の「教科連携絵本を通して幼児とのかかわり幼児の発達について考える」の報告がある。この事例は、園児のための絵本の選書と読み聞かせについて紹介した物であり、その他、ICT を活用した絵本作製の実践などはあるもの絵本の作成の過程について具体的にまとめられたものは多く

ない。

以上を見ても分かる通り、中学生が ESD を幼児に伝える絵本の作製に取り組んでいる事例の蓄積は多くないこと、教科の連携で絵本作成に取り組んでいる事例の蓄積も多くないので、これからの実践が待たれる分野であることがわかる。

2. 実践の概要

2.1 全体の流れ

実践は、附属中学校の美術科、国語科、家庭科それぞれの授業実践で構成される。まず全体の流れを示し、各教科の実践について報告する。

全体計画

実施時期 2023 年 9 月～11 月 対象学年 3 年

9 月 美術科 キャラクターを考える

家庭科 幼児の発達についての授業

10 月 国語科 美術科で考えたキャラクターをもとに絵本の物語を考える

11 月 家庭科 絵本の作成・読み聞かせ練習

2.2 美術科での取り組み

(1) 夏休み課題(資料 1)

(2) 教育実習生の授業で練り直す

夏休みの課題で

夏休み明けに ESD・SDGs をテーマとした絵本づくりがスタートします。美術科の授業で絵本に登場するキャラクター(主人公)を考え、国語科の授業で絵本のストーリーを考えるという流れで絵本の制作がすすんでいきます。

絵本を読んでもらうターゲットは幼稚園の園児です。このワークシートをキャラクターづくりの第一歩として園児にとって親しみが持てるキャラクターがどのようなかイメージしながらこれから制作していきましょう。

と言うことで、キャラクターを考えさせた。キャラクターを考える視点として、

● SDGs のゴールの中から園児が親しみを持てる物語がイメージできるゴールをひとつ選びましょう。

● 選んだゴールからどのような思いを園児に伝えたいですか

を提示した。

課題を元に、夏休み明けの授業で、考えたキャラクターの修正を行った。キャラクターについて考える過程で、今まで学んできたことを手がかりに ESD に関する内容の中から何を幼児に伝えたいのか、について吟味するこ

とになった。

2.3 国語科の取りくみ 全5時間

- (1) 司書 東氏からの絵本についての話を聞く
- (2) 既存の絵本の分析
- (3) (4) 物語のあらすじを考える

1. キャラクターを出し合おう
2. ストーリーの作り方を考えよう
・キャラクターから？ストーリーから？
3. 大きな流れを決めましょう
※まずどういう物語か一文で表してみよう
そういう物語にするにはどんな起承転結が考えられる？
4. 絵コンテ（下書き、設計図）を作る
※どんな文を入れるかも考えよう
字の大きさ、絵の大きさ、絵柄なども・・・

- (5) 物語を元に絵コンテを考える

東氏からの話は、昨年度同様、幼児にとっての絵本の意味とともに、幼児の発達段階にあった絵本についての話であった、その後、大まかに発達年齢別に分けた絵本に目を通し、自分たちの作製する絵本のイメージを作った。

美術科のキャラクターデザインについては、個人でSDGsのゴールを1つ決めて行ったが、物語を作るところからは、選んだSDGsのゴールが共通していることを基本条件に、各クラス5～6グループを作り、グループで取り組んだ。

物語を作るに当たっては、グループメンバーの作ったキャラクターの中から、1つを選んで取り組んだグループ、メンバーが作ったキャラクター全てを使って取り組んだグループ、両方があった。

2.4 家庭科での取り組み 全9時間

- 幼児の発達の授業・・・3時間

9月教育実習期間中に教生が担当 各1時間

附属幼稚園との交流のねらいの1つが「幼児との触れ合いを通して、技術・家庭科「保育」で、学習した幼児の体や心・生活習慣の発達についての理解を深める。」であり、また、絵本の作製については、交流する園児の発達年齢にあっていることを前提としているため、事前の学習として幼児の発達についての授業を行った。

- (1) 幼児の体の発達
- (2) 幼児の心の発達
- (3) 幼児と遊びについて

- 絵本作成・製本・読み聞かせ練習

幼児の発達についての学習の後、国語科での学習として、物語作り→絵コンテの作成を挟むことになったため、家庭科としては2段階に分けての学習となっ

た。物語と絵コンテについての吟味の後、絵本の作成を行った。

- (4) 物語の再考・作業の進め方の確認

交流する園児の年齢にあった物語になっているか

- (5) 下書き・色づけ
- (6) 色づけ・作画完成
- (7) 製本
- (8) 読み聞かせ練習

今年度は、国語科の授業で絵コンテを考えるまでを行ったので、家庭科では、基本的に絵コンテをもとに本描きを行うようにした。

3. 成果と課題

今年度は、幼稚園交流の時期が昨年よりさらに遅くなったため、園児への読み聞かせができていない。現時点での、成果と課題をまとめる。

3.1 成果

- (1) 昨年度までは、国語科と家庭科での連携授業であったため、物語を作成することから取り組んだ。

今年度については、美術科の協力も得ることができた。そのため、「絵本をつくりたい人へ」（玄光社）で紹介されている絵本の作り方のステップ

- STEP 1 キャラクターをつくる
- STEP 2 お話をつくる
- STEP 3 ラフをつくる
- STEP 4 本描きをする

に従う形で作成することができた。

美術科でのキャラクター作りで、SDGsのターゲットを1つ決めてから取り組むことによって、より園児達にESD・SDGsを伝えるキャラクターを考えることができたと考える。

その上で、物語作成に取り組んだことで、仲間と話し合う中で、自分たちが学んだESDの価値観を園児に伝えるためには、どのような物語にすべきかをよりしっかりと話し合い、絵本を通じて園児に伝えたいテーマが明確化されたと考える。

絵本作成後の生徒アンケートの一部を示す。

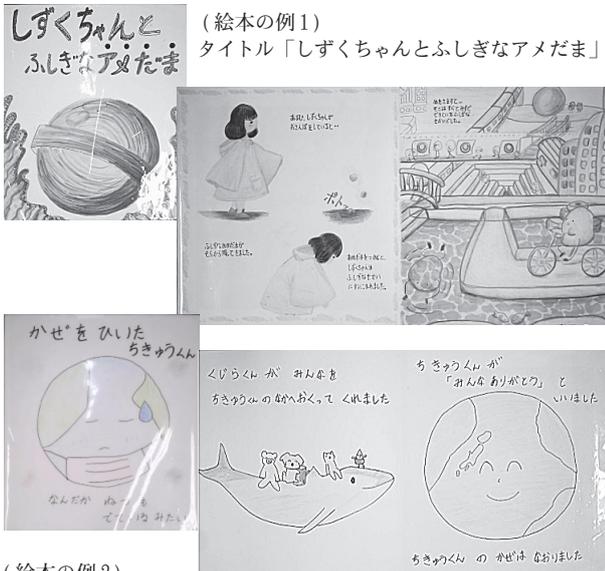
私の班はみんなのSDGsの目標がバラバラだったので、どうすればみんなのキャラクターがうまくまとまるのか考えた結果、一番伝わりやすいだろうと思った海の豊かさを守ろうという目標で物語を書いてみると、案外書きやすかった。でも細かい設定を確認していくと、穴だらけだったのでそこを修復するのが難しかった。

SDGsを意識しすぎると子どもたちにわかりにくいと思うし、展開や場面を一定にしているほうが子どもたちに理解してもらえらると思いました。プラスチックごみを減らすというより、ゴミという敵を片付けるといような印象にして子どもたちのイメージを膨らまそうと思いました。班で考えたキャラクターを全部出して、キャラそれぞれの個性を出せるように考えました。

(2) 幼児に伝えたいESDの価値観を考える際、グループの仲間と話し合う中で、これまで各教科や総合的な学習の時間で学んできたことの中から、その内容を吟味することができていた。

(3) 物語の作成と並行して、絵コンテ(上のSTEP3で言うところのラフ)を作成することによって、STEP4の本描きする作業へスムーズに移行することができた。

(4) 今年度も物語の作成から絵本の作成については、図書館で行った。そのことにより、絵本の専門家でもある司書東氏に、見本となる絵本や文字の書き方の参考本など必要な書籍などを準備していただくことができた。それだけでなく、絵と文字の配置、文字の大きさや字体など様々な視点でのアドバイスをいただきながら取り組むことができた。そのことにより、発達年齢を意識した表現の工夫は、昨年度同様見られた。



(絵本の例1)
タイトル「しずくちゃんとふしぎなアメだま」

(絵本の例2)
タイトル「かぜをひいたちきゅうくん」

3.2 課題

(1) 美術科でのキャラクターをつくる段階が出来たことで、各自がキャラクターを通じてどんなテーマを伝えたいのか考えた上で、絵本作成のグループとして伝えたいテーマは何かについて話し合った。そのことにより、絵本を通じて園児に伝えたいESD・SDGsは何かが明確化はされたと考える。しかし、本来であれば、物語がグループ

で意図したことを伝える内容になっているかどうか、検討する段階があるべきであるが、時間的な厳しさもありその段階を経ることなく、本描きの段階に進んでしまっている。

時間的に厳しい面もあるが、短時間でも内容の吟味の時間を確保したい。

(2) ESDについて伝える内容が明確化した一方、それに至るまでに国語科で物語を作る段階で困難を感じたグループもあった。来年度実施に当たっては、物語作りを一定進めた段階でキャラクター作りをするなど、授業計画の見直しも含めて検討が必要である。

(3) 評価に関する面での課題もある。

①「幼児の発達課題にあう絵本を作る」と考えたとき、低年齢対象の絵本では、物語性が薄くなる。この場合、国語科としては、文章に求める質をどこに置くかに難しさが出てくる。

②家庭科としても、完成した絵本だけの評価でなく、製過程の評価をしてやりたいが、グループで作業することによる難しさがある。

また、「幼児の発達年齢にあった絵本になったかどうか」について、よりしっかりと分析するためには、附属幼稚園の先生方の講評を受けることが必要であるが、今年度までそれを受けることが出来ていない。今年度こそは講評を受け、来年度に活かしたいと考える。

③「ESDを幼児に説明するものとして適切な絵本であったかどうか」の評価について、家庭科で評価することになるかと思うが、その評価基準をどうするのか。

この点については昨年度からわかっていたことであるが、良い解決方法を見つけることができていない。

(4) この取り組みの考えのスタートとして、「ESDとは何か？」を幼児に伝えると言うことがある。今回は昨年度と比較すれば、水に関わるものへのかたよりは改善されたが、幼児にESDとは何か？について多様なテーマを通じて知らせることが望ましいと考えたとき、テーマの重なりはできるだけ避けたい。物語の作成の段階で、テーマのかぶりについて調整することが求められる。

(5) 最後に、本プロジェクトの共同研究者である奈良教育大学家庭科教育講座 村上睦美氏、本校国語科 福田真人氏、本校美術科 長友紀子氏に感謝する。

参考・引用文献

- (1) 浜村京子 (2005), 「中学生との交流が幼児の遊び行動に与える影響」, 小児保健研究, pp.316-321
- (2) 藤村由美子 (2002), 猪野郁子, 「中学生の幼児ふれあい体験学習に関する研究」, 島根大学教育学部紀要 (教育科学), 第36巻, pp.27-35
- (3) 土井章史 (2020), 絵本をつくりたい人へ, 玄光社, p52 ~ 91.
- (4) つるみ ゆき (2013), 絵本つくりかた, 技術評論社.
- (5) 大阪市立第十中学校 (2019), 自分を大切に ひとを

大切に 未来を大切にできる生徒の育成, 第9回 ESD 大賞受賞校実践集 (2019)「絵本作りで伝える SDGs」 http://www.jp-esd.org/img/2018_ESD-jissen_9_web.pdf

絵本を通して幼児とのかかわり幼児の発達について考える」 <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/items/EhonwoTositeYoujinoHattatuwoKangaeru.pdf>

- (6) 関谷かなえ (2021), 令和3年度文部科学省事業報告会 みんなで使おう学校図書館! Vol.13 報告「教科連携

(資料1)

絵本のキャラクターをデザインしよう

3年 組 番 氏名 ()

夏休み明けに ESD・SDGs をテーマとした絵本づくりがスタートします。美術科の授業で絵本に登場するキャラクター (主人公) を考えた後、国語科の授業で絵本のストーリーを考えるという流れで絵本の制作がすすんでいきます。

絵本を読んでもらうターゲットは幼稚園の園児です。このワークシートをキャラクターづくりの第一歩として園児にとって親しみがあるようなキャラクターがどのようなものなのかイメージしながらこれから制作していきましょう。

●SDGs のゴールの中から園児が親しみを持つ物語がイメージできるゴールをひとつ選びましょう

●選んだゴールからどのような園児を園児に伝えたいですか

●今まで読んできた絵本の中に登場した印象深いキャラクターを話してきましょう (一つ以上)

絵本の題名:	絵本の題名:
--------	--------

(資料2)

『ぼくのじゃがいも』どんなお話でしょう？

○一文で表すと…

_____ が _____ 物語。

○起承転結で考えると…

起	
承	
転	
結	